資料　2

敬語小委員会の今期の審議について

1　「敬語の具体的な指針」作成に当たっての基本方針

敬語が必要だと感じているが，現実の運用に際しては困難を感じている人たちを主たる対象とし，どのような分野の人間にとっても＜基本となる「よりどころ」＞　の作成を目指す。

2　「敬語の具体的な指針」の構成及び内容

答申「敬語の具体的な指針」における各章の「基本的な趣旨」及び「内容と章との相互関係」については，以下のようなものとする。

＜はじめに＞

第１章　総論

今後の敬語についての基本的な考え方について，「現代社会における敬意表現」（第22期国語審議会答申・平成12年）の内容との関連性を踏まえて記述する。

第２章　敬語の仕組み

敬語（特に尊敬語・謙譲語・丁寧語等の，狭義の敬語を中心にして）というものの基本的な仕組み（語形の種類や敬語としての意味，それらの相互関係・体系性）と，そのとらえ方を，典型的な具体例を用いながら，簡潔・平易に記述する。この内容が，諸方面から求められる「指針」として，「敬語を考える基本的なよりどころ」となることを目指す。

第３章　敬語の具体的な使い方

場面やその場の人間関係などを含めて，具体的な敬語の使い方を解説し，今後の敬語の「指針」を具体的に示す。具体例の中には，敬語の誤用や過不足など，敬語の問題として議論されることの多い事例を含めて，本「指針」が「具体的なよりどころ」ともなるように内容を充実させる。

＜終わりに＞

3　第３章「敬語の具体的な使い方」の設問・解説（記述見本例）

A　敬語のタイプの誤りによって，コミュニケーションに支障を生じる場合

【問い】パーティーでフルーツをとろうとしたら，隣の人も同時に手を伸ばしてきた。相手がフルーツを取るつもりなら順番を譲ろうと思って，「あ，フルーツを取るんですか。」の意で「あ，お取りしますか。」と言ったところ，相手は「ありがとうございます。」という返事とともに手を止めてしまった。相手は，こちらがフルーツを取ってあげることを申し出たと理解したらしい。こちらの敬語の使い方が不適切だったのだろうか。

【解説】この場合は，相手側の行為を立てて述べようとするケースなので，敬語（1）（いわゆる尊敬語）を使って「おとりになりますか」と言えば良かったところである。「お取りしますか。」と言えば，敬語（2）（いわゆる謙譲語）なので，自分から相手側に向かう行為を，相手側を立てて述べることになる。つまり，「相手のためにフルーツを取ってあげる」ことを申し出たものと理解されてしまうことになる。

【注意すべき点】このように，敬語（1）と敬語（2）の使い誤りは，どちらの行為であるかという理解を妨げることにもなるので，注意を要する。

B　「させていただく」の使いすぎ

【問い】①「本日休業させていただきます。」という掲示を見ることがあるが，この「させていただく」は適切か。②結婚式のスピーチで「私は新郎と三年間同じクラスで勉強させていただいた者です。」と言う人がいたが，この「させていただく」は適切か。③自己紹介の時，「私は○○高校を卒業させていただきました。」と言う人がいたが，この「させていただく」は適切か。

【解説】「何々していただく」は，相手側または第三者が「何々する」行為について，それを受けることが恩恵であるととらえて述べる敬語である（「敬語の仕組み」1－（2）＜補足説明イ＞ 参照）。例えば，「コピーを取っていただく」は，相手側又は第三者が，こちらのためにコピーを取ってくれることを，恩恵ととらえて述べる敬語である。

「何々させていただく」の場合は，こちらが「何々する」ことを，相手側又は第三者が許してそうさせてくれる，それがこちらにとって恩恵である，ととえて述べる敬語である。「コピーを取らせていただく」は，例えば，相手側又は第三者が貴重な本を持っていて，こちらがそのコピーを取ることを許してくれることが有り難い，といった場合に使うのがふさわしい。

このように「させていただく」は，本来，ただ自分側の行為を丁重に述べる敬語なのではなく，自分側の行為を，相手側又は第三者からの許可・恩恵を受けてのこととととらえ，その許可・恩恵の与え手を立てて述べる，という発想の敬語であって，このような状況で使うのが最もなじむ。

だが，実際には許可・恩恵を受けていなくてもそれを受けているかのように見立てて述べることが相手を立てることになる，という発想が日本語にはあり，「させていただく」の用法も広がってくる。広がりをどこまで認めるかについては個人差があり，このため，個々の用法ごとに，人によって適否の判断が分かれることも起こり得ることにもなる。

上記①の「本日休業する」ことは，実際には店の都合で勝手に休業するのだが，「客の許しを得てそうさせていただく」と見立てているわけで，これは，多くの人が「させていただく」の自然な広がりとして認めるとらえ方であろう。（もっとも，一部，違和感を感じるという人もあるようである。）

②の「同じクラスで勉強した」ことは，一般的な感覚ではそれが恩恵だとはとらえにくい内容であるが，ここでは，それを「恩恵を受けた」かのように見立てて「させていただく」を使って述べている。そこに無理があると感じる人は②に違和感を感じることになるが，結婚式で新郎を最大限に立てるべき場面であることを考え合わせれば許容範囲内の拡張である，という考え方もあり得るだろう。

③の「高校を卒業した」ことは，上記の①②と異なり，相手とかかわりなく成立することであり，それだけに一層，「相手の許可・恩恵を受けてそうした」とは認めにくい内容である。したがって，これを「させていただく」で述べるのはなじまない。（ただし，「○○高校」の旧師，特に，例えば卒業困難だったところを卒業認定してくれたような旧師に対して述べるような場合ならば，なじむ。）

このように，上記３例は，①②③の順に「させていただく」が使いやすい。①は適切な範囲，②は意見の分かれるところであり，③は不適切というべきである。

C　「第三者」の扱い―「ウチ・ソト」の問題

C１　面接場面で。面接を受ける者が面接官に対して，自分の身内について話す。

【問い】同居はしていない「おじいさん・おばあさん」について言及するときには「おじいさん・おばあさん」と言ってもよいのだろうか。

【解説１】　改まった面接場面では，特に「話し手」が子供ではない場合には，自分のおじいさん，おばあさんについて言及するときには，同居していても，いなくても，「祖父」「祖母」と言った方が良い。

【解説２】ふだんは，「お父さん・お母さん・おじいさん・おばあさん・伯父（叔父）さん・伯母（叔母）さん・お兄さん・お姉さん」などと話し掛けている相手をウチ扱いの「第三者」とする場合には，「父・母・祖父・祖母・伯父（叔父）・伯母（叔母）・兄・姉」と言うことになる。ただし，日常の余り改まった場面でないときには，「お父さん・お母さん・父親・母親…」などと呼ぶこともある。

C２　会社の取引場面で。自分の上司のことを，取引先の会社の社員に話す。

【問い】自分が日常は敬語を使って話している田中部長のことを，取引先の社員に話すときにウチ扱いにすることは分かるのだが，「田中」と呼び捨てにするのはどうも抵抗がある。特に田中部長が同席しているときに「田中」とは言いにくいのだが。

【解説１】　「第三者」としての「田中部長」をウチ扱いにするときには，「田中」だけではなく，「部長の田中」というように「部長」を職階として示した上でウチ扱いにして呼ぶことがある。

【解説２】　改まった場面では「弊社の部長」，ややくだけた場面では「ウチの部長」などと言うことで，「田中」という名前に触れずに表現することができる。その場合の「部長」は，「田中部長」という敬称としての用法とは異なり，単に職階を示していると考えられる。

C３　学校で。中学校の教師が同僚の教師のことを，保護者に対して話す。

【問い】　保護者からの電話で，同僚の田中教諭の不在を伝えるときに，「田中先生はいらっしゃいません。」と伝えたが，それで良かったのだろうか。「ウチ・ソト」の扱いからすれば，「田中はおりません。」の方が良かったのだろうか。

【解説１】　学校で生徒の保護者に対して，「田中はおりません」ではなく「田中先生はいらっしゃいません」と言うことを支持する人が多いようである。学校では，「ウチ・ソト」の意識よりも，生徒を基準にし，その教師であるという点を優先させる方が良いと考えられる。

【解説２】　同僚を「田中先生」と呼ぶことに抵抗がある場合には，「田中教諭」など職名で呼ぶ方法もある。この方がより中立的な言い方になると言えよう。また，「田中先生はおりません」とすれば，田中教諭を余り高めることなく，保護者に対して改まって伝えることになる。